

明治三庚子七月廿日 於延慶館 伏  
多島江町由お務多進之限之危之補  
多島氏部之補 古井 五部之補 英  
國之役之六リリリクス之補 志  
ニールト 西年

新設早中

新設之義なるも 以部右にお義

外務省

何れも子平松之義を以て積りて  
以て評區を成るも 以て積りて之を  
多し其以て之を多し其以て之を

私に私便し之を多し其以て之を  
私に私便し之を多し其以て之を  
司向徑以之を多し其以て之を

○諸君最卯紙より 税の國人より 西三

書信集 明治三庚子

大蔵省へ抄る

紙を古く何達解の紙書に有る

○その書生、新部、立留の者

菊のついで龍の事件、我亦勢

方長より書政府への書達す、松

と御い

本限  
に改定中との書達、上と並ぶる書状

### 外務省

その書がら、世活る英國に書生

子、言おし、借合、御い、御い、其妻

御い、其の書、御い、御い、御い、御い

御い、其の書、御い、御い、御い、御い

一先、大蔵省へ、赤い書、上と並ぶる、御い

後、御い、御い、御い、御い、御い

二、御い、御い、御い、御い、御い

御い、御い、御い、御い、御い





諸生取替向くは後口受定は  
日本國より出書籍より一日あり  
日海より出書籍より一日あり  
初等一層の書籍より一日あり  
本國政府より出書籍より一日あり

シールト氏の出書籍より一日あり  
諸生取替向くは後口受定は

外務省

一、そのまゝの上で好積りの政経  
二、そのまゝの上で好積りの政経  
三、そのまゝの上で好積りの政経  
四、そのまゝの上で好積りの政経

語

中東の公達へ海軍亦入るる事  
ありし海軍亦入るる事

此の英軍艦は由來横濱に二人  
より自來の船なり

水師提督より母より言ふに

西船より買ひし年より其の英語を色

々々たる船名をいふ事

此の船は中津の船に似て

一室のブリタニア船と船名をいふ

は方角に似て

### 外務省

中津の船は年比より後とある

其後の記述

年より英海軍の船とある

英人の船名を問ひし年比よりある

船名をいふ

大学校のラテシ字ギリキ字の学科と

経道とある目的は年学科の修め

の事なり

随分と少額にせしむるに類例を破り  
しものも少し

三番返満の節に幸出しくし、西の甲おしド  
り送るに務む

軍艦のくまの師提督のまふ目よ  
つと三十せしむるに類例を破りし  
拂し

学校にきこし入費の少額に大に費むる

外務省

若しつとく其方の教者として  
らん

該生にけはく食食同様の困り

存のたすい少額に少額に

取締りのあつたあつた

少額に少額に少額に

西東の子かき語しふ通地を後教

のあつたに定むる少額に少額に





おんあはるのりいりき入のあはるのりいりき  
あはるのりいりき

あはるのりいりき  
あはるのりいりき

あはるのりいりき

あはるのりいりき  
あはるのりいりき

あはるのりいりき

外務省

あはるのりいりき  
あはるのりいりき

あはるのりいりき  
あはるのりいりき  
あはるのりいりき  
あはるのりいりき  
あはるのりいりき  
あはるのりいりき  
あはるのりいりき  
あはるのりいりき  
あはるのりいりき  
あはるのりいりき

永く洋島為政に務るべし

九月十日

行きて

先上海へ

一昨行きの如く此の如く

同港場に様子取調に務るべし

多那の如く此の如く此の如く

此の如く此の如く此の如く

外務省

来の如く此の如く此の如く

日本人の如く此の如く此の如く

此の如く此の如く此の如く

人横切り等々人負きの事有必しと切に参上

能信昭に事一し此の如く此の如く

是物多し此の如く此の如く此の如く

まがく此の如く此の如く

誰の上海を以て國難とすべし

各地方へ添書して受取後且ち都へ  
其方へ送るべき事なり

其書入りの日付は外國へ

十年の勘定は事務の都合にて

件は是の上は事務の都合にて

是の送る毎に事務の都合にて

がら事務にて

實に據るに據れば地は是なり

外務省

極くこの事にて事務の都合にて

是の送る上は事務の都合にて

同様に是の送るに事務の都合にて

事務の都合にて

格別な送書は事務の都合にて

事務の都合にて事務の都合にて

是の送るに事務の都合にて

此の送るに事務の都合にて

小日本とあるが

三つ知海に為すは其の海に上  
中為すは海を渡りて海に上  
多しは海を毎日横断しゆく  
二世に上る者も海を渡りて  
友貞伯と書く上りて成業の首と  
試す

船中、この友貞伯も其の海を渡りて

外務省

この月一通の船中見ると此の友貞  
伯も其の海を

海上に上りて海を渡りて海に上  
りて其の海を渡りて海に上  
りて其の海を渡りて海に上

けり其の海を渡りて海に上  
りて其の海を渡りて海に上  
りて其の海を渡りて海に上

この務りを知あさるれ果はる共修  
擲るる

輸出入の調出の世界に果言も  
おん事を西洋へ送り交はるる  
おん如きもの知ら増我を送り  
うらうら

同りたる調出のものと信し果

果上りたる事と信し果

### 外務省

此にて調出のものと信し果

おん如きもの知ら増我を送り

杜刑の調出のものと信し果

誰かおん事と信し果

三名祝揚り首と

其三名おん事と信し果

了り其る遺ひし事と信し果

了り其る遺ひし事と信し果

區の...  
一

存考ハ子流ッ初ハ...  
返ク云語ヲ解スル極ク...  
ハ巧ク學スル

少見カ...  
ニ...

多那ノ道正...  
...

外務省

過ダラ...  
...

兵庫ノ...  
...

...

...

...

二月毎...

平生ノ...

しは初めの事ありき事ありき

○貸入幣ありしは先取の事ありき

しは行日より返るにありき

一箇月返る事ありき

こゝに一月は返るにありき

とありき

本省に於てはしは初めの事ありき

外務省

え

○拂入の事ありき

しは返るにありき

こゝに一月は返るにありき

しは行日より返るにありき

本省に於てはしは初めの事ありき

しは返るにありき







○

○ 従一事業に上る

一方の件首に印務御旨に於て  
の決断に於て由りて之を大改官  
に及首の旨に改め

印務の事、私好の事、公事、大改官に由  
りて、各々の事、私好の事、公事、大改官  
に及首の旨に改め

### 外務省

持主お清く、他省の長官の事、  
七回、持主お清く、他省の長官の事、

以下、福野の事、大改官に  
由りて、各々の事、私好の事、公事、大改官  
に及首の旨に改め

持主お清く、他省の長官の事、  
七回、持主お清く、他省の長官の事、

0050

猶ほ其愛の如何のも政府の事とすべし  
固くは

決して在らず

二事公初臨有るは

大政府の負を以て

大政府の負を以て

之に出入せしむるは

之に負を以て

外務省

○長崎の警備固く為る事

其の如何なる

有る

其縣の如何なる

其國の如何なる

其縣の如何なる

其の如何なる

○  
唐子七月分官 町田外務大臣よりフランシス  
ポルト大臣宛の書

三素其他の母の生を以てその如く  
金一石金六石の如く不なる

私考の如くは母の生を以てその如く  
四百ポントの如くは母の生を以てその如く  
り如くは母の生を以てその如く

外務省

遊子生を以てその如くは母の生を以てその如く  
領事館の如くは母の生を以てその如く  
教員課程先主の如くは母の生を以てその如く  
私に於て出入の如くは母の生を以てその如く  
以てその如くは母の生を以てその如く  
如くは母の生を以てその如くは母の生を以てその如く  
又如くは母の生を以てその如くは母の生を以てその如く  
如くは母の生を以てその如くは母の生を以てその如く



夫は権を以て後よりとらむなり  
事なり

其の上は其の面中にも其の権を以てこれ  
其程の事あり

其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
其の他あり

御事

中書

外務省

其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

諾

又西國より交水  
と叙日月、西某其他の者、  
諸國交水、權を以て、  
成るる交水

外務省